

平成22年度 学校法人藤枝学園事業報告書

自 平成22年4月1日至 平成23年3月31日

I 学校法人の概要

1 沿革

大正元年9月	仲田裁縫教授所創設
大正12年4月	青島高等裁縫女学校（本科・速成科・専修科）設立
昭和19年3月	財団法人青島女子学院設立
昭和19年4月	静岡県青島女子商業学校（本科・専修科・専攻科）に昇格
昭和23年1月	静岡県青島家庭高等学校（本科・別科1・別科2・研究科）に昇格、青島女子中学校を併設
昭和25年12月	学校法人青島学園に組織変更
昭和28年1月	静岡県青島家庭高等学校附属幼稚園設立
昭和29年4月	学校法人青島学園を学校法人藤枝学園と改称、静岡県青島家庭高等学校を藤枝南女子高等学校（本科・別科1・別科2・研究科）及び静岡県青島家庭高等学校附属幼稚園を藤枝南女子高等学校附属幼稚園と改称
昭和31年4月	藤枝南女子高等学校の学科変更 普通科・家庭科
昭和31年7月	藤枝南女子高等学校附属幼稚園園舎及び附属建物増築及び園地拡張
昭和32年3月	藤枝南女子高等学校第1期鉄筋校舎完成
昭和35年4月	藤枝南女子高等学校の学科変更 普通科（商業コース・家庭コース）・家庭科
昭和40年10月	藤枝南女子高等学校仲田講堂兼体育館落成
昭和43年4月	藤枝南女子高等学校体育館落成 藤枝南女子高等学校の学科変更 普通科A類（商業・家庭）・普通科B類・食物科新設（調理師養成施設認可）
昭和45年4月	藤枝南女子高等学校の学科変更 普通科A類（家庭・商業・美術工芸デザイン）・普通科B・食物科
昭和46年11月	藤枝南女子高等学校創立60年記念式典
昭和48年4月	藤枝南女子高等学校の学科変更 普通科（家庭コース・商業コース・普通コース）美術工芸デザイン科（新設）・食物科
昭和51年3月	藤枝南女子高等学校第2期講堂落成
昭和51年1月	藤枝南女子高等学校創立65周年記念式典
昭和51年12月	藤枝南女子高等学校附属幼稚園鉄筋2階建園舎竣工
昭和55年1月	藤枝南女子高等学校附属幼稚園補助保育室及び車庫竣工
昭和56年10月	藤枝南女子高等学校創立70周年記念式典
昭和58年4月	藤枝明誠高等学校開校
昭和61年11月	藤枝南女子高等学校創立75周年慰霊祭

昭和62年9月	藤枝明誠高等学校創立5周年記念式典
昭和63年4月	藤枝南女子高等学校の学科変更 普通科（服飾選択・経理事務選択・会計処理選択・文書庶務選択）美術工芸デザイン科・食物科
昭和63年9月	校舎・講堂竣工
平成元年8月	藤枝明誠高等学校校舎東館竣工
平成2年2月	藤枝南女子高等学校生徒宿泊研修センター竣工
平成3年10月	藤枝南女子高等学校創立80周年記念式典
平成4年10月	藤枝南女子高等学校附属幼稚園創立40周年記念式典
平成4年4月	藤枝明誠高等学校英数科設置
平成4年8月	藤枝南女子高等学校生徒宿泊研修センター・ミーテングルーム増設
平成4年5月	藤枝明誠高等学校南運動場・本運動場拡張
平成4年10月	藤枝明誠高等学校創立10周年記念式典
平成6年2月	藤枝南女子高等学校附属幼稚園新園舎竣工
平成8年3月	藤枝明誠高等学校特別教室棟増築
平成9年6月	藤枝南女子高等学校体育館落成
平成10年3月	藤枝明誠高等学校雨天多目的体育館竣工
平成13年4月	藤枝南女子高等学校の学科変更 普通科（経理情報専攻・文書情報専攻・大学進学専攻）美術工芸デザイン科・食物科
平成13年11月	藤枝南女子高等学校創立90周年記念式典・慰霊祭
平成14年10月	藤枝明誠高等学校創立20周年記念式典
平成14年11月	藤枝南女子高等学校附属幼稚園創立50周年記念式典
平成15年4月	藤枝南女子高等学校を藤枝順心高等学校に改称し藤枝順心中学校を併設
平成15年4月	藤枝明誠中学校開校
平成15年4月	藤枝南女子高等学校附属幼稚園を藤枝順心高等学校附属幼稚園に改称
平成20年8月	藤枝順心高等学校・藤枝順心中学校普通教室冷暖房設備設置
平成20年10月	藤枝順心高等学校・藤枝順心中学校グラウンド人工芝張り整備
平成21年4月	藤枝明誠高等学校・藤枝明誠中学校グラウンド人工芝張り整備

2 設置学校及び生徒園児在籍状況（平成22年5月1日現在）

（人）

学 校 名	在 籍 合 計
藤枝順心高等学校	502
藤枝明誠高等学校	968
藤枝順心中学校	38
藤枝明誠中学校	157
藤枝順心高等学校附属幼稚園	392
学校法人計	2,057

3 役員・教職員の状況

(1) 役員（平成23年3月31日現在）

理事 7人

理事長 仲田晃弘

理事 戸田雪子

理事 長谷川徳洋

理事 仲田弘

理事 時田鉦平

理事 青島克郎

理事 萩原昌明

監事 3人

監事 伊東道男

監事 畑 正規

監事 勝澤 要

(2) 教職員の状況（平成23年3月31日現在）

区 分	人 員
管理職	9人
幼稚園・中学校・高等学校教員	101人
講師	78人
事務職員	19人
非常勤事務職員	3人
合 計	210人

II 事業概要

1 平成22年度経営方針

学園創立の精神である仏典修証義「第4章発願利生」の一節にある「自未得度先度他」の

教えを基軸として、藤枝順心中学校・高等学校、藤枝明誠中学校・高等学校、藤枝順心高等学校附属幼稚園がそれぞれの特性を十分発揮することにより、地域に密着し、地域に愛され認められる教育活動を展開するよう取り組む。

藤枝順心中学校・高等学校においては、校訓である「自覚」を、人として備えるべき条件、あるいは資格、そして、自立するための学びであり、常に忘れず、怠らず励むこととして目指し、「梅、寒苦を経て清香を発す」という白梅精神「清楚・芳香・忍耐」を教育目標に掲げて、女性の自律・自主と先度陀の心の涵養を願いとする女子教育に取り組む。

藤枝明誠中学校・高等学校においては、校訓を「初心忘るべからず」とし、初学の志、創建の心、何れも、純正一途であろう。学の中道、物事の中途においては常に反省に立ち、初一念の振起につとめ、挫折することがあってはならない。また、教育目標は、学園の綱領に基づく教育活動により、知・徳・体を錬成し調和のある人間像を確立する。

藤枝順心高等学校附属幼稚園においては、創立者の教育方針「強く、明るく」の精神を踏まえて、幼児一人一人の発達特性に応じ、環境とかわりながら幼児教育にふさわしい生活体験を通じて、心身ともに健やかな成長発達を図ることを目指して教育活動を推進する。

教育目標を「豊かな心とたくましい体をもった子」として、思いやりのある子、がんばりのきく子、挨拶のできる子を育てる。

そのため

- ・ 子どもの理解に努め、一人一人の発達特性や個に応じた指導をする。
- ・ 遊びをひろげ、深める環境を構成する。
- ・ 社会の変化や地域の要請に応え、保護者との連携を密にして保育を進める。
- ・ 小学校教育との結びつきを図るため、地域の小学校との連携を進める。

2 各部門の事業概要

(1) 藤枝順心中学校

6年一貫教育を3期に分け、中学1・2年は「基礎課程」、中学3年・高校1年は「集中の課程」高校2・3年は「発展課程」と位置づけ、国公立大学進学を目指した。中学課程については、理科は実験を中心にして中学2年生で終了した。国語・社会・数学は高校課程を取り入れながら中学3年で終了した。英語はプログレス1～3を用い、高校1年から2年にかけて終了した。音楽・美術・体育は6年間を見据え、中学課程・高校課程にとらわれず実施した。

また、総合的な学習の時間では、「エレガントプラン」とともに「茶道」を取り入れ、知育にかたよらない教育活動を展開した。

(2) 藤枝明誠中学校

藤枝明誠中学校・高等学校の一貫教育として、中学では

- ・ドリルを通して教科学習を基礎基本から学ぶ
- ・団体行動を通してセルフ＝コントロールと社会性を学ぶ
- ・体力トレーニングを通して基礎学力を身につける

を共通目標に取り組んだ。

また、第 1 学年では基本的な生活習慣の確立、集団生活や団体行動に慣れる、第 2 学年では基礎学習を完成するために、学習に意欲的・継続的に取り組む、自分自身の性格・適正を見つめさせる、第 3 学年では、中高一貫の第 2 期として、自己探求期の生徒として、知性・心・身体を陶冶する、藤枝明誠の教育目標・教育方針を具体化する主たる核の一つとしての自覚を持ち、明誠スピリットの発揚につとめ、もって明誠高校に進学する、など学年ごとに目標を持って臨んだ。

* 部活動の実績

棋道部

全国中学生選抜将棋選手権大会 優勝 友田敦也 (3 年)

柔道部

全国中学総体 出場 清水圭三郎 (3 年)

(3) 藤枝順心高等学校

ア 普通科

- ・ 経理情報専攻

卒業後、経理及び事務関係の職場での活躍を目指す生徒を対象にしている。社会に出て即戦力となり働くことができるように、経理技術及び事務処理技術の習得に重点を置き、「日本商工会議所主催の簿記検定」等の資格取得することを目標とした。また、会計処理の O A 化に十分応じられるよう、最新コンピュータを導入し、エクセル・ワードを用いた教育プログラムを編成して取り組んだ。

- ・ 文書情報専攻

企業の O A 化に対処し、文書作成に必要な技術を身につけていくことを目指し、最終的に「日本商工会議所の P C 検定」等の資格取得することを目標とした。最新コンピュータを導入し、エクセル・ワードを用いた教育プログラムを編成して取り組んだ。

- ・ 大学進学専攻

大学への進学を目指し、普通科目の学力充実・強化に重点をおいたカリキュラムを組んだ。サマースタディマラソン (夏期休業中の講座)、センター試験対策講座や外部模試には全員参加し、学力の強化伸長に努めた。また、大学入試センター試験を全員が受験し、国立大学・私立大学への合格を目指した。

イ 美術工芸デザイン科

美術工芸デザイン関係の資質のレベルアップを図り、将来実社会で通用するデザイナーや、工芸作家としての能力を養成することを目指した。専門教科のデッサン、ビ

ジュアルデッサン、絵画実習、クラフトデザイン等の時間数を多くして科の独自性を発揮した。

ウ 食物科

1年生は、普通科目、食品学などの専門科目の基礎からスタートし、2年生はさらに教科を充実、3年生では、調理実習に重点をおいて、調理師免許証を取得できる実務的な教育を展開し卒業と同時に全員調理師免許証を取得した。また、文部科学省認定の食物調理技術検定1級の取得を目標とした。

エ 部活動の実績

コーラス部 関東合唱コンクール 金賞受賞

サッカー部

全日本高等学校女子サッカー選手権 全国ベスト16

全日本女子サッカー選手権大会 全国ベスト8

全日本女子ユース(U-18)サッカー選手権大会 全国準優勝

柔道部

全国高校総体 女子個人の部 48Kg級 全国ベスト8 伊藤美麗

78Kg級超 全国ベスト16 中村 優

静岡県高等学校新人柔道大会県大会 女子団体の部 優勝

女子個人の部 52Kg級 優勝 岡本理帆

57Kg級 優勝 松川美世

78Kg級超 優勝 中村 優

(4) 藤枝明誠高等学校

知・徳・体のバランスのとれた人間を目指して、大学現役合格を目指す生徒、心豊かで爽やかな感じのよい生徒、学習と部活動で長所を伸ばせる生徒、を育てる生徒像として、その育成に努めた。

ア 普通科

4年生大学を目指すコースとして、1年生では、連日6時限授業の中で進学に対する教科指導を充実させた。2～3年生では、学習と部活動を両立させる総合コース(週5日、連日6時限・土曜日隔週3時限の授業)と国公立大学を目指しながら、部活動に打ち込める理数コース(月火木の3日間は7時限授業)のクラス編成で授業を展開した。

イ 英数科

全国有数の難関、国公立大学・私立大学を目指すコースとして、英語・数学を中心に学習内容の密度を濃くし、志望先大学に則した学習と個別指導を充実させた。

週5日、連日7時限・土曜日隔週3時限の授業を実施した。

ウ 部活動の実績

サッカー部

静岡県高等学校総合体育大会 県ベスト4
 JFAプリンスリーグU-18 東海 1部 東海8位
 全国高校サッカー選手権大会 県ベスト4

バスケットボール部

全国高校総体 ベスト16
 全国選抜優勝大会静岡県大会 準優勝

陸上競技部

千葉国体 走り幅跳び 2位 村上 亮太
 全国高校総体 走り幅跳び 出場 村上 亮太

棋道部

全国高校将棋選手権大会
 兼全国高校総合文化祭 男子団体戦 出場
 男子個人戦 出場 山田和省
 女子個人戦 出場 杉本陽子
 全国高校文化連盟将棋新人大会
 男子個人戦 5位 山田和省

囲碁部

全国高校囲碁選手権大会 男子団体戦 出場
 全国高校総合文化祭 男子個人戦 14位 荒井晶久
 (静岡県選抜メンバー)
 男子個人戦 16位 乗松崇之
 女子個人戦 10位 池ヶ谷敦美

(5) 藤枝順心高等学校附属幼稚園

「健康」 健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を送ろうとする態度を育てた。

- ・戸外で伸び伸びと体を動かして遊べるように働きかけた。
- ・幼児の遊びに配慮した環境の整備を進めた。
- ・他の幼児とのかかわりの中で自立心を育て、安全な生活に必要な習慣を身につけさせた。

「人間関係」 他の人々と親しみ支え合って生活するために、自立心を育て人とかかわる力を養った。

- ・幼児期にふさわしい道德性の芽生えを培う指導を充実した。
- ・一人一人を生かした集団を作りながら人とかかわる力を育てた。
- ・幼児が「自分が大切にされている」と実感できるような接し方に心がけ、人に対する信頼感や思いやりの気持ちを養った。

- ・さまざまな人々と交流し、人とかかわる楽しさや人の役に立つ喜びを味わえるようにした。

「言葉」 相手の話す言葉を聞こうとしたり自分の思いを言葉で表現しようとしたりする態度を育て、言葉に対する感覚や言葉による表現力を養った。

- ・心を動かすような体験から生まれる思いを、言葉で伝える喜びを味わえるようにした。
- ・日常生活の中で絵本などを通して文字に触れる機会を設け、幼児の文字に対する興味や関心を持つようにした。

「表現」 感じたことや考えたことを様々な方法で表現することを通して、豊かな感性や表現力を養い創造力を養った。

- ・描いたり歌ったりすることを通して、豊かな感性と表現力を育てた。
- ・幼児がいろいろな方法で表現することを楽しめるように支援した。

「環境」 周囲の様々な環境に好奇心や探究心を持ち、知ろうとしたりかかわりを深めたりしようとする態度を養った。

- ・身近な動植物に親しみを持って接することを通して命の尊さに気付き、いたわったり大切にしたりしようとする心を育てた。
- ・周囲の事象に接する幼児の感動や驚きに保育者が共感し、自然への興味や関心を育てた。

◎ 預かり保育

保護者（母親）が働くなどの理由で子どもを家庭で保育できない在園児を、保育時間の前後や長期休業中に保育した。